



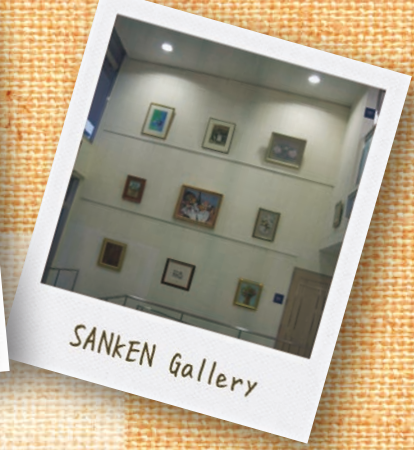
ロゴマーク制作者の表彰
産研フェスタにて



ものづくり教室
2014スペシャル



産研テクノサロン・スペシャル



SANKEN Gallery

産研創立75周年 記念事業 無事終了!

大阪大学 産業科学研究所
The Institute of Scientific and Industrial Research, Osaka University



第17回産研定例記者会見
産研にて開催



第18回産研国際
シンポジウム



創立75周年記念
第70回学術講演会
サテライト会場



創立75周年記念式典



研究所一般公開

- 産研創立75周年記念事業 無事終了!
- 産研テクノサロン・スペシャル ● 大阪大学 産業科学研究所 学術講演会
- 産研国際シンポジウム/産研ナノテクノロジーシンポジウム
- 学振・拠点形成プログラム、頭脳循環プログラム国際会議
- アライアンス若手研究交流会/アライアンス技術支援シンポジウム・技術室報告会
- 産研OB・OG/学生交流会 ● 防災・消防訓練
- ハラスメント防止に関する講演会 ● 産研国際交流パーティー
- From広報室(図書室) ● 産研一般公開・記者会見レポート

創立75周年記念事業が 無事終了しました。

産研創立75周年記念特別講演会、式典、祝賀会が11月28日に千里阪急ホテルにおいて開催されました。また、その前日には定例記者会見及び研究室公開が行われました。15年前(1999年)には創立60周年記念行事が挙行されましたが、以来15年の間にはナノテクノロジーセンター設置(2002年)、国立大学法人化(2004年)、3研究部門1センター制への大改組(2009年)及び前例のない5大学附置研究所による全国縦断型「物質・デバイス領域共同研究拠点」が発足(2010年)し、この間の歩みを振り返り総括する機会として75周年記念行事が企画されました。記念行事は、八木所長を委員長とする事業実行委員会のもとに、産研協会、産研同窓会の協力により、約1年前から準備を進め、一連の記念行事に加え、75周年「記念ロゴマーク」の作成、「記念誌」の発行、及び歴代名誉教授から寄贈された絵画を管理棟1階講堂横に「産研ギャラリー」として整備しました。

特別講演会

株式会社コミュニカ代表取締役
山元 賢治 氏

「これからの世界」で
活躍するリーダーとは



東京工業大学名誉教授・前学長
伊賀 健一 氏

「面発光レーザーと
フォトニクス」

第1部 面発光レーザーとフランクリン賞
第2部 レーザーとコントラバス(共鳴と調和)
演奏 伊賀 健一(コントラバス)
波多腰 玄一(ピアノ)



記念式典



(敬称略)

上段左から

文部科学省研究振興局学術機関課長補佐 岡本 和久
国立大学附置研究所・センター長会議会長
東京大学分子細胞生物学研究所長 秋山 徹

下段左から

大阪大学産業科学研究所長 八木 康史
大阪大学総長 平野 俊夫
一般財団法人大阪大学産業科学研究所協会
専務理事 清水 裕一



祝賀会



(敬称略)

上段左から

大阪大学名誉教授(産研同窓会会長) 榎田 俊一
 東北大学多元物質科学研究所副所長 垣花 真人
 特定非営利活動法人
 おおさか大学起業支援機構代表理事 篠原 祥哲
 大阪大学名誉教授 福井 俊郎



75周年誌の発行

産研創立75周年事業の一環として75周年記念誌「産研この15年の進化と挑戦」を制作いたしました。

この記念誌は、60周年記念誌が発行されてからの15年を纏めたものです。タイトルにも記載したように、この15年は産研にとってまさに進化と挑戦の年月でした。この記念誌を通して、産研所属の方は勿論のこと、産研OB・OGの方など広く皆様に産研の歴史の一部を知って頂く機会になったのではないかと思います。

ご執筆・ご寄稿頂いた皆様、そして記念誌編算に関わって頂いた皆様に感謝いたします。

記念誌は右記アドレスからも閲覧できます。www.sanken.osaka-u.ac.jp/jp/public/75th_an/



産研ギャラリー開設



75周年記念事業の一環として、これまでに退官教授から寄贈され産研で所蔵している絵画を主体にして、所内に絵画を展示することが産研同窓会から提案されました。これらの絵画は、以前は、産研講堂前、第一研究棟などに展示されていましたが、建物の改修工事のために撤去され、倉庫に入っていたものです。

昨年10月末に展示工事が行われ、八木所長より「産研ギャラリー」と命名され、11月11日にオープニングセレモニーが実施されました。このギャラリーは、管理棟エントランス・フロア奥の講堂側壁面を主に利用して開設されており、著名な画家達の絵画も観られます。産研にあって、芸術は多様な発想を呼び起こす重要なファクターとなるのではないのでしょうか。

産研テクノサロン・スペシャル(産研創立75周年記念)

産研創立75周年を記念して、産研テクノサロン・スペシャルが平成26年11月7日、千里ライフサイエンスセンターにおいて開催されました。産研テクノサロンは、産業界と産研とを繋ぎ新たな展開を目指す場として開催されていますが、今回は「未来を担う産業科学の躍進を目指して」をテーマに、4つの記念講演が行われました。最初に、内閣府総合科学技術・イノベーション会議の久間和生議員から「日本の科学技術イノベーション戦略」について講演があり、続いて、伊藤忠商事(株)の小林栄三会長から「未来を変える原動力：イノベーションへの期待」について、さ

らに、経済産業省大学連携推進室の宮本岩男室長から「産学連携施策の新たな展開について」講演をしていただきました。また、産研の八木康史所長からは、産研のこの10年のあゆみと今後の展望について語っていただきました。記念講演会の後の交流会にも多くの方が参加され、和やかな雰囲気の中で、これからの社会の発展に向け産研における研究活動や人材育成に対する期待が語られました。

ご参加、ご協力いただいた皆様に御礼申し上げます。



第70回学術講演会

標記の講演会が平成26年11月29日(土)に産研講堂にて開催されました。今年は、産研創立75周年記念事業の一環としても位置付けられ、所内教職員学生、名誉教授のほか多くの所外関係者の方の参加をいただき、講堂に加えてインキュベーション棟にサテライト会場を設けました。(総参加者数：131名)八木所長の挨拶の後、特別講演として産研特任教授(カーネギーメロン大学教授)の金出武雄先生に「面白くて、役に立ち、ストーリーのある」研究のすすめ」と題して、良い研究とは何かをテーマにお話をいただきました。一般講演では、今年度産研に着任された4名の教授陣に、「光子と電子スピンを結ぶ複合量子デバイスとその展開(大岩頭教授)」、「次世代社会基盤を支える有機センサシステムの開発～実世界のあらゆるものをネットに繋ぐ次世代インターフェースの実現を目指して～(関谷毅教授)」、「音声対話ロボットの多人数対話への展開(駒谷和範教授)」、「構造機能チューニングによるチタニアナノチューブの環境・エネルギー・生体適合機能の深化(関野徹教授)」のたいへんホットな話題を提供していただきました。



第18回産研国際シンポジウム/第13回産研ナノテクノロジーシンポジウム

12月10、11日に第18回産研国際シンポジウム並びに第13回産研ナノテクノロジーシンポジウムを開催しました。今回は、産研75周年記念行事の一環ということもあり産研を飛び出しグランフロント大阪内にある、ナレッジキャピタルコングレクションセンターで行いました。

今回の産研シンポジウムは「Recent Advances in Nanotechnology from Basic to Industrial Research」と題し、近年著しい進歩を遂げているナノテク

ノロジーの基礎や動向、更なる展開について国内外から21名の研究者(うち海外より10名)にご講演頂き、産研研究者とともに活発な議論を交わしました。また、ポスター会場においては、112件の発表があり会場内では盛んにプレゼンテーションが繰り広げられ、11日夜に行われた懇親会では和やかな歓談の輪が広がっていました。



学振・拠点形成プログラム、頭脳循環プログラム国際会議

産研では現在、学振の先端拠点形成プログラム、頭脳循環プログラムが進行中で、これらのプログラムを通して若手海外派遣を行い、グローバル人材育成を実施しています。先端拠点形成プログラム(実施期間5年、今年度は2年目)では、「健康と安心安全を支援する高度センシング技術開発に関する国際研究拠点形成」のテーマを掲げ、海外6拠点のimec、オックスフォード大学、パリ南大学、ノルウェー科技大学、マックスプランク研(Mainz)、パデュエ大学に院生を含む若手研究者を各1か月派遣し、連携研究、研究交流の成果を出しつつあります。

頭脳循環プログラム(実施期間3年、今年度が最終年度)では、「最先端国際ナノデバイス研究コンソーシアムへの派遣によるグローバル若手研究者の育成」のテーマのもと、毎年2名の若手研究者(Drコース学生、助教)をimecに各約1年間派遣し成果を挙げてきました。

これら2つのプログラムでの国際連携を強化する目的で毎年1度、両プログラム合同の国際シンポジウムが開催されています。昨年度はベルギーで6月に開催されましたが、今年度は、産研創立75周年記念の国際シンポジウムシリーズの一環として、大阪・梅田のグランフロント大阪内ナレッジキャピタルコングレコンベンションセンターにて2nd Conference of SANKEN Core to Core Program、2nd Symposium of SANKEN Brain Circulation Program(3rd imec Handai International Symposiumと共催)の会議名で12月12日に開催されました。海外からの参加者、産研からの参加者を合わせ、84名の参加があり、合計14件の最先端の研究についての講演と討論が行われました。



第2回アライアンス若手研究交流会/ 第3回アライアンス技術支援シンポジウム・第27回技術室報告会 合同開催

〈第2回アライアンス若手研究交流会〉

平成26年11月26日、27日に産業科学研究所にて「第2回アライアンス若手研究交流会 ～モノを創る、観る、識る～」を開催しました。26日は産研研究室紹介、依頼講演、ポスター発表および懇親会を行い、27日は依頼講演と産研研究室見学を行いました。アライアンスに参画する北海道大学、東北大学、東京工業大学、大阪大学、および九州大学の5大学から合計44名の若手研究者が参加し、異分野間の交流を深めました。

依頼講演では研究室の特色や、研究を行う上での強みや弱み等を含めて発表していただき、活発な議論を通して共同研究への足がかりを模索しました。アライアンス技術支援シンポジウムと合同で行ったポスター発表では50件を超える発表があり大盛況でした。研究室見学では、12の研究室・研究施設を4つのグループに分け、希望のコースを1時間かけて回っていただきました。

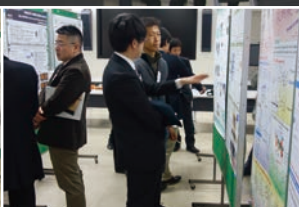
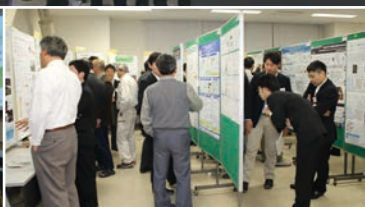
若手研究者間の交流をより深めることによって、異分野に対する知見を深め、研究の幅を広げる事ができ、結果として共同研究へ繋がること期待されます。

〈第3回アライアンス技術支援シンポジウム・第27回技術室報告会〉

平成26年11月26日に産研技術室主催の「第3回アライアンス技術支援シンポジウム・第27回技術室報告会」を開催しました。アライアンスに参加する5研究所から技術職員の代表が集まり、日頃の研究支援活動の成果発表が行われました。また、今回は第2回アライアンス若手研究交流会との合同開催により、70数名を超える参加者の交流も活発に行われました。

田中秀和所長補佐と沼尾正行技術室運営委員長による開会挨拶の後、若手教員による産研の見学グループ紹介と田中高紀技術室長による技術室紹介が行われました。その後若手教員と別れ、松川博昭技術職員による「科学を支えたガラスを考える」と題した発表とポスター発表の概要・見所発表が行われました。ポスター発表では再び若手教員と相まみえ、活発な意見交換が行われました。さらに、その後懇親会も合同で実施され、大盛況となりました。

研究支援を担う技術職員には、今後ますます高度かつ幅広い技術と知識が求められています。アライアンス事業は来年度で区切りを迎えますが、アライアンス5研究所に所属する技術職員が支援業務における成果を発表し、お互いに啓発を受けることは貴重であり、今後も回を重ねていく必要性を痛感しました。さらに、若手教員との交流により、今後よりいっそう痒いところに手の届く研究支援ができればと感じております。



第1回産研OB・OG／学生交流会を開催しました

11月29日楠本会館にて、産研院生会議、産業科学連携教育研究センター、産研同窓会の共催により「第1回産研OB・OG／学生交流会」を開催し、学部、修士、博士課程の学生あわせて約35名が参加しました。

本交流会は、世代間の交流を深めて産研同窓会活動を活性化させることや産研OB・OGの皆様から、「これから社会へ出る後輩へ向けて社会に出てわかる産研の強み」、「学生時代しておくべきこと」等のアドバイスを頂き交流を深めることを目的としています。

第1回目の今回は、ダイキン工業株式会社TS部ゴム応用Gの坂井彩さん(安蘇研OG)、シャープ株式会社新規事業推進本部事業推進センター革新商品事業推進部の清水孝子さん(旧新原研OG)、産業科学研究所助教の菅見一さん(吉田研OB)をお迎えし講演いただくとともに、質疑応答や交流が行われ、OB・OGと学生の親睦が図られました。

学生と年代が近い、若い社会人による生の声が聞けたと、学生から好評を博しました。

事後のアンケートによると、もっとお話をしたかったと感じた生徒も多く、次回以降も、規模を拡大して続けていきたいと考えています。



防災訓練及び消防訓練の実施

10月の大阪大学安全衛生強化月間に合わせて、総合的な防災訓練及び消防訓練を10月23日(木)に茨木市消防署下井分署の指導のもと実施しました。教職員及び学生等約200名が参加し、火災に対する予防意識の向上と地震等災害発生時の対処心得、及び消火器、AEDの操作方法の習得が図られました。

訓練は3部構成で行われ、第1部は、研究棟3階の研究室で火災が発生したことを想定した消防訓練(通報訓練及び避難訓練)、第2部は、震度6強の地震発生を想定した防災訓練(被害状況確認訓練及び避難訓練)を実施しました。

また、第3部は、教職員・学生による消火器操作およびAED(自動体外式除細動器)の操作訓練を行い、今年度は、実際の火を消す訓練を行ったことにより、より実践に近い訓練となりました。



平成26年度「ハラスメント防止に関する講演会」開催

11月17日(月)、産業科学研究所講堂において、「ハラスメント防止に関する講演会」を開催いたしました。本講演会は、ハラスメントに対する理解を深め、良好な組織環境を形成することを目的として毎年所内で開催しているものです。

今年度は、本学ハラスメント相談室専門相談員 中野冬美氏による「ハラスメントをなくすために～本学における現状と課題～」と題した講演が行われました。

約50名の教職員が参加する中、ハラスメントが発生する要因や状況、最近の傾向及び防止のための対策などについて事例を交えて説明が行われました。

日頃のコミュニケーションを大切に、他の人への目配り、気配りが互いのできる風通しの良い職場環境を築くことが重要であることを再認識し、ハラスメント防止に対する意識の向上を図る良い機会となりました。



平成26年度「産研国際交流パーティー」開催

12月18日(木)銀杏会館2階のレストラン「ミネルバ」において、産研国際交流パーティーを開催いたしました。

この催しは、本研究所において日々研究等を行っている外国人研究者、留学生の方々と、教職員やチューター等との親睦を深めることを目的として毎年開催されており、今年は中国、韓国、インド、インドネシア、バングラデシュ、エジプト、イギリス、フラ

ンス、オランダなど各国から来日した外国人研究者等80名以上が出席しました。

吉田副所長の開会挨拶のあと、松本教授の挨拶と乾杯の発声で始まり、出席者は日本での研究や日常生活等の話題について歓談し、国際交流と研究室を超えた交流を図る機会となりました。



産研75周年記念事業の一環として、11月27日に第17回産研定例記者会見、11月28と29日に産研所内一般公開が行われました。それらの様子をご紹介します。

また、両事業については多くのご協力を賜り開催することができました。両事業に携わって頂いた皆様、本当にありがとうございました。

第17回産研定例記者会見(11月27日)

管理棟2階大会議室にて行われた会見には報道機関6社より7名が参加され、小口教授、八木教授、能木准教授、永井教授、菅助教が発表された後、懇親会が行われ本日の会見内容について発表者が記者より更に質疑を受けるなど、歓談の花が咲いておりました。

午後からは発表された先生方の研究室を記者が訪問し、研究の現場を見学・取材されました。記者から「研究室を見学したい」と仰って頂くことが多いので、今後もこのような機会を設けていきたいと思っております。



産研一般公開(11月28～29日)

1日目は天候に恵まれましたが、2日目は生憎の雨模様。それでも来場者は2日間で合計102名でした。地域の方や企業の方、更には堺に産研があった時代(産研が現在地に移転したのは1968年です!)に勤務されていた産研OBの方にも遠方からご来場いただきました。

両日とも公開時間が午前中のみでしたので、「公開時間を長くしてほしい!」や、「産研が広いので迷った…」というご意見も賜りました。賜ったご意見は、今後のいちょう祭一般公開に活かしていきたいと思っております。



From 広報室



研究を成功に導くための強き味方

産業科学研究所 図書室

産研図書室は産研が創立した当初から設置されている施設であり、昨年産研と共に75周年を迎えました。現在は約25,000冊の蔵書を管理しています。

場所は管理棟2階にあり、開室時間は平日9:00～17:00としていますが、(都合により、変更有)産研所属の方はIDカードを利用して平日(17:00～23:00)や、土日祝(9:00～23:00)に時間外利用も可能です。ただし、貸し出しなど事務的処理の必要な場合は、平日の開室時間のみです。

図書室活用法

図書室という借りられるのは蔵書だけというイメージが強いですが、蔵書を借りられるだけでなく、蔵書検索(OPAC)(opac.library.osaka-u.ac.jp/)から「学内図書を取り寄せ申し込み」をすることにより大阪大学内の図書館・図書室の蔵書を、産研図書室で借りることもできます。もちろん取り寄せた蔵書の返却も可能です。取り寄せた本に限らず、学内の他の図書館・図書室で借りた蔵書も産研図書室で返却できます。(ただし、他大学から取り寄せた本や雑誌は返却出来ません。)また、学内・学外の文献複写を取り寄せることも可能です。

室内にはPC、コピー機、製本機まで揃っており資料収集、研究、発表時には強い味方となるはず。他に個人スペースが確保されたブースもあるので、集中して勉強に取り組むこともできます。そんな産研図書室に皆様も一度足を運んでみてはいかがでしょうか?



受賞一覧 (平成26年10月1日～平成27年1月31日)

藤原 宏平	日本MRS奨励賞	日本MRS
谷口 正輝	科学技術への顕著な貢献2014(ナイスステップな研究者)	文部科学省 科学技術・学術政策研究所
八木 康史	IWRVCV9 ベストポスター賞	第9回ロバストコンピュータビジョンに関する国際ワークショップ
松村 隆弘	//	//
榎原 靖	優秀査読者賞	マルチメディアに関する第15回環太平洋会議
開發 邦宏	ポスター発表 優秀発表賞	日本カテキン学会
笹井 宏明	モレキュラーキラリティアジア2014 ポスター賞	モレキュラーキラリティアジア2014実行委員会
林 賢今	//	//
竹中 和浩	//	//
安藤 陽一	第32回(平成26年度)大阪科学賞	大阪府、大阪市、(財)大阪科学技術センター
近藤 孝文	第11回電離放射線と高分子国際会議 ベストポスター賞	電離放射線と高分子国際会議組織委員会
川合 知二	第75回公益財団法人応用物理学会秋季学術講演会 2014年ポスター賞	公益財団法人応用物理学会
谷口 正輝	//	//
筒井 真楠	//	//

新任教職員一覧 (平成26年10月1日～平成27年1月31日)

平成26年10月1日		
採用	助教(先進電子デバイス)	荒木 徹平
採用	助教(知識科学)	武田 龍
採用	特任事務職員(企画室)	西田 彩
採用	特任教授(バイオナノテクノロジー)	川合 知二
採用	特任研究員(励起物性科学)	LIM Anthony Craig
採用	特任研究員(機能物質化学)	高谷 修平
採用	技術補佐員(先端実装材料)	加賀美 宗子
採用	技術補佐員(第2プロジェクト(セルロースナノファイバー材料))	難波 直子
採用	事務補佐員(半導体量子科学)	榎本 歩
採用	事務補佐員(第3プロジェクト(生体防御学))	松岡 澄恵
配置換	財務係主任	六津井 泰子(医学部附属病院管理課用度第二係主任より)
平成26年10月7日		
招へい	外国人研究員(客員教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター)	GROGER Harald Frank
平成26年10月16日		
採用	事務補佐員(精密制御化学)	矢口 百合子
平成26年11月1日		
採用	特任研究員(量子ビーム物質科学)	藤井 慎哉
採用	事務補佐員(先進電子デバイス)	高橋 知子
採用	事務補佐員(先進電子デバイス)	本摩 多紀
所属換	事務補佐員(先進電子デバイス)	植田 美知(精密制御化学から)
平成26年12月1日		
採用	事務補佐員(半導体材料・プロセス)	住吉 陽子
採用	事務補佐員(研究連携課財務係)	和田 由美
招へい	外国人研究員(客員教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター)	PINCIK Emil
平成27年1月1日		
採用	助教(半導体量子科学)	小野 亮生
採用	特任准教授(常勤)(第2プロジェクト(感染制御学))	YAN Aixin
採用	特任研究員(常勤)(機能物質化学)	MOHANTA Suman Chandra
平成27年1月16日		
採用	特任研究員(常勤)(バイオナノテクノロジー)	江崎 裕子

離任教職員一覧 (平成26年10月1日～平成27年1月31日)

平成26年10月1日		
配置換	財務係主任	田仲 裕一(医学部附属病院管理課用度第一係主任へ)
平成26年10月3日		
任期満了	外国人研究員(客員准教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター)	Stanislav JURECKA
平成26年10月31日		
退職	特任准教授(常勤)(半導体量子科学)	大野 恭秀(徳島大学大学院ソシオテクノサイエンス研究部 准教授へ)
退職	特任助教(常勤)(複合知能メディア)	MANSUR AI
退職	特任研究員(知識科学)	笹嶋 宗彦
退職	特任研究員(知識科学)	西村 悟史
退職	事務補佐員(研究連携課財務係)	森 有佳子
平成26年11月15日		
退職	特任准教授(知的財産)	川上 茂樹
平成26年11月27日		
任期満了	外国人研究員(客員教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター)	GROGER Harald Frank
平成26年11月30日		
退職	事務補佐員(研究連携課研究協力係)	筒井 深雪
平成26年12月31日		
退職	准教授(第2プロジェクト(極微材料プロセス))	柳田 剛(九州大学先端物質化学研究所 教授へ)
退職	特任研究員(常勤)(機能物質化学)	DAS Priyabrata
退職	特任研究員(機能物質化学)	MOHANTA Suman Chandra
退職	技術補佐員(総合解析センター)	髙原 綱吉
平成27年1月15日		
退職	特任研究員(常勤)(複合知能メディア)	MUHAMMAD Rasyid Aqmar
平成27年1月30日		
任期満了	外国人研究員(客員教授)(産業科学ナノテクノロジーセンター)	PINCIK Emil
平成27年1月31日		
退職	事務補佐員(半導体材料・プロセス)	和田 忍

編集 後記

ニュースレターをお読みいただきありがとうございました。今号では平成26年度の9月から1月までの催事を中心としてお伝えさせていただきました。75周年記念行事などを含む、とても華やかな誌面になったのではないかと思います。最後になりましたが、年末年始のお忙しい時期に記事を執筆いただいた皆様に厚くお礼申し上げます。(横田 一造)

産研ニュースレター 2015.02 第54号

発行: 大阪大学 産業科学研究所 編集: 産研広報室
〒567-0047 大阪府茨木市美穂ヶ丘8-1 TEL&FAX:06-6879-8524
URL: <http://www.sanken.osaka-u.ac.jp/> E-mail: kouhou@sanken.osaka-u.ac.jp